

令和6年度：東郷学園の学力向上アクションプラン							
重点目標		実践事項					
<div>自ら学び、考える子を育てる</div> <div>1 9年間の連続性のある一貫した指導で、基本的な学習習慣を身に付けさせ、児童生徒に学習内容を定着させる。</div> <div>2 9年間で児童生徒を育てる義務教育学校に勤務する使命感や職責感を高めた教職員集団で、児童生徒の学力向上を目指す(責任をもって次学年に進級させる学年づくり)。</div> <div>3 コミュニティ・スクールとして、学校教育に協力的な東郷地域の教育環境を生かし、地域とは教育活動の連動を、家庭とは家庭学習の習慣づくりの連携を図る。</div>	学力の実態	1 R5標準学力検査(NRT)の結果					
			国語	社会	算数・数学	理科	英語
		5年	48.0	48.1	48.1	46.9	
		6年	50.6	49.2	52.1	51.0	
		7年	48.8	51.0	51.4	50.2	49.9
	8年	47.5	49.6	45.5	48.0	44.8	
	9年	54.1	54.8	46.7	51.8	48.7	
		2 R5全国学力・学習状況調査結果 ※ ()内は全国との比較					
		国語	算数・数学	英語	理科		
	6年	69.0(+1.8)	71.0(+8.5)				
	9年	78.0(+8.2)	52.0(+1.0)	45.0(+3.7)			
		3 R5鹿児島学習定着度調査結果 ※ ()内は県との比較					
		国語	社会	算数・数学	理科	英語	
	5年	75.8(+7.3)	76.3(+11)	84.1(+9.5)	80.4(+5)		
	7年	84.2(+8.3)	68.2(+13.9)	80.7(+6.4)	68.1(+1.8)	80.0(+3)	
	8年	78.1(+12.5)	72.7(+10.4)	60.9(-7.9)	70.1(+3.4)	63.5(-7.9)	
		4 家庭学習時間達成者の割合…全校平均:83%					
		5 アンダーアチーバー…20%を超える学年が 2学年					
<div>学力検査の達成目標</div> <div>1 標準学力検査(NRT)において、「平均偏差値52.0」「アンダーアチーバー4」を達成する。</div> <div>2 全国学力学習状況調査においては、各教科通過率全国比+5ポイントを達成する。</div> <div>3 鹿児島学習定着度調査においては、各教科通過率県比+5ポイントを達成する。</div>	学業指導の徹底・授業の充実	項目		内容			
		基本姿勢		児童生徒の学力を向上させる授業設計をする。			
		学業指導の徹底		①学習のしつけの定着(学習のきまり・ノーチャイム) ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ③自主的に学ぶ姿勢の確立(課題と自主学習)			
		授業の充実		確かな授業づくり推進プラン			
		【学習の基盤となる学級づくり】 ① 授業において、教師・友達からの承認・称賛を得られる場を設定していく。 ② 望ましい姿や向上的変容に対するKR情報の提示による肯定的評価を行う。(例:うなずく、同意) ③ 互いの考えを自由に述べ合うことのできる受容的雰囲気づくりを行う。(例:笑顔、体の向き、視線)					
<div>家庭学習の達成目標</div> <div>学年×10分+30分以上</div>		【児童生徒に力をつけられる授業の展開】 ① 諸学力調査の結果分析で明らかとなった課題は、授業を通して解決していく。 ② 「北薩の授業づくり3ポイント」、「学びの羅針盤」等を活用し、質の高い授業改善(令和の日本型教育)に努め、学び方の定着を目指す。 ア「まとめ」から授業をデザインし、「めあて」との整合性を図る。また、1単位時間内で完結する授業づくりを行う。 イ 発問に対して思考・判断した自分の考えを、ペアやグループ活動を通して他者に表現する場を設定する。 ウ 思考の流れに沿った構造的な板書計画とノート指導に努める。 エ 1単位時間及び単元全体の学習内容を振り返る場を設定し、学習内容の確実な定着を図る。 オ ICTを効果的に活用し、個別最適・協働的な教育の推進を図る。 ③ 家庭学習(特に休日)の管理について、保護者と連携を図る。					
		【重点課題・過去問題への計画的な取組】 ① 「作業化」を通して、意識の焦点化・情報の関連付けを図る。 ② 重点課題(かごしま学力向上支援Webシステム)の取組を確実に実施する。 ③ 過去問題(全国学力学習状況調査・鹿児島学習定着度調査)…担任・教科担任とで問題取組計画を立案し、実施する。 ④ 5教科部会を適宜実施し、実施結果を踏まえた改善策を検討・実施する。					
全校体制による指導							
1 「9年間で育てる」ための学力向上の共通実践 ●「協働授業の実施」と「教科担任制の研究」 ● 東郷学園「学習のきまり」と「学習の手引き」の活用 ● 一単位時間内での知識・技能の定着を図る時間の設定 ● 学びの実感に向けた、「振り返り」の実施 ● 見せ合い、学び合い(相互授業参観)による授業力向上、児童生徒の実態把握と連携 ● 肯定的な評価及び豊富なKR情報の提示による児童生徒の自己肯定感・非認知スキルの醸成 ● 朝・帰りの会での「30秒スピーチ」の実践と指導(表現力の育成) ● 教科部会における補教ポイントの把握と教科指導の具体策の検討							
2 補充指導 ● 単元終了時における演習問題(かごしま学力向上支援Webシステムの単元別評価問題・全国学力学習状況調査・鹿児島学習定着度調査の過去問題・アシストシート)の活用 ● 「『やればできるを実感』100点チャレンジ」の実践(前期:単元テスト、後期:訂正ノートや各教科でのテストで実施)							
3 家庭学習の充実 ● 家庭学習目標時間達成者率「90%以上」の達成 ● 学校だより・学級通信等の各種広報紙による、家庭学習状況の保護者への周知							
家庭との連携		1 「東郷チャレンジウィーク」を通して、家庭学習の習慣をより一層定着させ、学力の保持に努める。 2 家庭学習の様子について、学級通信や学年・学級PTAの話題として取り上げる。					